

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570600249		
法人名	社会福祉法人ひまわり会		
事業所名	永寿園 グループホーム ひなたぼっこ		
所在地	宮崎県日向市大字富高343-1		
自己評価作成日	平成22年10月15日	評価結果市町村受理日	平成23年2月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.kouhohoren-miyazaki.or.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=4570600249&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成22年12月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅地の中にあつて、普通の住宅なので、入居者様にとっては自宅での生活がそのまま継続している感じで安心して生活でき、落ち着いた雰囲気があります。庭も広く、家庭菜園を一緒に収穫したり、散歩したりして季節感を味わえます。
また、地域との交流も積極的に行い、近隣の方々から声をよくかけられております。今年もいきいきサロンに会場を提供し、参加人数も増えていて、馴染みの関係が少しずつ出来ている。今年の夏は夕涼みを行い、花火を隣のご家族がみえて一緒にいきいきサロンに行き、とても喜ばれておりました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは住宅街に位置し、民家改修型で我が家の生活がそのまま継続されていると感じである。地域の人々との積極的なかわりや、生き生きサロンの会場提供をするともに、職員全員で参加者のお弁当を作りおもてなしする等、地域生活の継続支援や、地域での役割・関係を密にしようとする取組がなされている。夏には隣の家族と夕涼み花火を共にし、楽しいひと時を過ごしている。母体である法人の施設長・ホームの管理者は、職員が仕事に誇りを持ち、楽しく働き続けられる条件づくりをしており、生き生きとして働く職員や穏やかな表情の利用者の姿に反映されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を常に意識するように職員の見えるところに掲示している。また、グループホームとして「まちの井戸端！ひなたぼっこ」を目標に、「まちの井戸端！ひなたぼっこ」を目標に、地域の方々との交流を行っている。	法人としての理念とともに、「まちの井戸端！ひなたぼっこ」を目標に掲げ、地域密着型サービスの意義を全職員認識し、目標に向けた取組を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の散歩や買い物中、気軽にあいさつしたり、自治会の行事、自主防災活動の勉強会、いきいきサロンの参加を積極的に行い、いきいきサロンでは、年2回会場の提供を行っている。	近くの公民館で催される生き生きサロンに積極的に参加している。また、年2回、サロンへの会場提供を行っている。利用者と回覧板を持って行くなど、地域の方々と触れ合う機会は多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いきいきサロンに会場を提供し、認知症の利用者様の生活の様子を知っていただくようにしている。待機者の方・ご家族の方との交流会を行い、グループホームの生活を知って頂く様にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を行っている。災害の会議時は、推進委員の意見が多かった。防災頭巾の意見もあり、取り入れた。	2か月ごとに開催され、推進委員から防災用頭巾が必要との意見があり、早速取り入れるなど、会議での提言や意見を運営に反映させている。また、ホームの生活をビデオで紹介したり、認知症の理解を深める勉強会の場にもなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域支援ネットワークの会議に参加し、介護保険の情報を得たりしている。	推進委員に市高齢者担当課からの参加がある。ホームの状況報告や、介護認定更新時を利用し市役所へ出向き、情報を提供している。地域支援ネットワーク会議に参加し、情報も得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はなく、自由に生活していただいているが、本人様にとって気に入らないことがあると出て行く方がいて、その時に応じて一緒に散歩したり、おやつにしたりしている。身体拘束について研修を行い、理解を深めている。	玄関の施錠を含めて、全職員は拘束をしないケアをしており、利用者が外出した時にはさりげなく見守り、自由な暮らしを支援している。拘束についての研修を行い、理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修に参加したり、職員間でも虐待について常に話し合っている。特に言葉による虐待には十分注意し、防止している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1名の方が、利用されている。研修に参加している。ご家族にはパンフレットを以前配布しているが、そのままである。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	今年度、1名の方の退所時に、ご家族の貴重なご意見を頂き、入所時には、契約内容を十分わかりやすく説明するように心がけている。また、ご家族の面会時や電話連絡時に不安や疑問点を聞き出すようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情を管理者、職員に言えない場合は、第三者に相談するようにと掲示している。面会時に要望、不満などを伺い、話を聴くようにしている。日頃から信頼関係を構築できるよう努力している。	家族の意見や苦情は、母体である法人施設長を交えて話し合い、運営に反映させていく取組がなされている。管理者・職員に言えない場合は、第三者への窓口を掲示している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングの中で意見を出してもらうようにしている。また、3ヶ月に1回の割合で面談を行い、意見、要望、不満を出してもらい、施設長・課長と相談し意見に応えるようにしている。	職員の意見や提案は、月1回のミーティングにて表出する機会を設け、運営に反映させている。職員に対する資格取得や研修支援もあり、生き生きと楽しく働ける環境づくりがなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境や整備の面で努力しているため、職員も働き続けたいと言われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修(月2回)に勤務以外の職員が参加し、その復命書も毎回提出している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県北グループホーム連絡協議会の勉強会に職員を参加させ、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所された方は、環境の変化で不安がありますが、本人様が安心していただくようにご本人様の気持ちを受け止め、寄り添うようにして、顔なじみになるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今年度入所された方は、様子を電話でお知らせして、ご家族の要望も聴くようにしている。8月に入所された方は、帰宅欲求が強く、ご家族に相談して2週間ごとに帰省されている。送迎時に、ご家族の要望、意見等を聴くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	待機者様との交流で、小規模多機能型居宅介護事業所の情報を提供した。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様が出来ることはして頂き、出来ないことは支援している。食器洗い、洗濯物のしわのばしなどは、利用者様に積極的に手伝って頂いている。毎日の生活の中で、お互い助け合ったり、冗談を言っては笑い、過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会はいつでも来ていただくようにしている。本人様のことで何かあった時や、本人様の訴え時には電話連絡し、相談したり、帰宅したりと協力いただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様のご希望により、ご兄弟に会いに行ったり、線香あげ、墓参りにご家族の協力を得て行かれたりしている。	受診の帰りに自宅に立ち寄ったり、なじみの美容室に出かけたり、家族の来訪時に協力を依頼し、本人が希望する線香上げや、墓参りに行く等、生活習慣の継続関係の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操を行っている時に、利用者様同士で教えあったり、風船バレーを皆様と行っている。一人で新聞折りをされている方もいるが、その都度声かけしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養に入所された方は、時々面会に行ったり、職員に様子を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員を中心に、本人様の思いやご要望に耳を傾けながら、把握に努めている。また、困難な場合は、本人様の表情、ご家族の思い、職員の思いを聴いて検討している。	担当制を設けており、一人ひとりの思いの把握に努めている。帰宅欲求の強い方には、家族の協力を得ながら、2週間に1度の外泊を依頼する等、本人の思いを大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	昔の話にふれ、どんな暮らしをしていたのかを聴いたり、ご家族の面会時に生活状況を伺ったりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月1回のミーティングで、一人ひとりの心身の状態を話し合い、把握するようにして、その方が安心して過ごしていただけるよう個別に対応するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のミーティングで前月のモニタリングを行い、意見を出し合って、介護計画に活かしている。	担当制を設けていることにより、更に細部まで目が届き、本人の表出できない部分や状態を把握できるようになっている。月1回のミーティングにて本人、家族の意向、担当者の意見等を検討し、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録以外に、連絡ノートでいつもと違う行動や気づきがあった時に記載して、職員に伝達している。ミーティング時に再度話し合い、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体である特養施設の行事やデイサービスの舞踊の訪問に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月2回傾聴のボランティアの訪問で、ゆっくり話を聞いて頂いている。近隣の美容院を利用したり、買い物して声をかけられている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時よりかかっている病院に入所されても、引き続き受診するようにしている。	それぞれ掛かりつけ医があり、受診できる支援をしている。現在、定期受診をされている方が3名おり、付き添い受診をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体である特養施設の看護職員に、利用者様の健康状態のことで相談し、助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者様の情報を提供しています。ご家族と一緒に医師からの説明を聞いたり、面会時に看護師より状態を聞いて把握している。退院時は看護師より助言を頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人様、ご家族の希望を伺った上で、職員、上司と話し合っている。	終末期ケアは実施していないが、重度化の段階で、母体である特別養護老人ホームの施設長、職員、家族と話し合い、方針を共有している。管理者は、設備、人的配置等の条件が整備されれば、看取りは取り入れたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置しているので、AEDの使用について定期的に確認し、救急法の実践について年1回行うようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回避難訓練を行っている。災害時に区長、地元消防団部長に連絡するようにしている。	毎月1回、災害対策訓練を行っている。夜間想定訓練や消火器の取扱い等、消防署員も参加してもらい、いろいろ指示をいただいている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに対して接し方も違うので、プライバシーに配慮し、その人にあった言葉かけをしている。個人情報の取り扱いには充分注意している。	一人ひとりを尊重し、言葉かけや対応に配慮している。特に排泄介助や入浴時にはプライバシーを損なわないように注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとり持っている力が違うので、個別に様々な選択肢をわかりやすく説明し、自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の利用者様の状態を把握し、本人様の希望に添えるように支援しているが、その日の状態によって、できる日とできない日がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒にその日に着る洋服を選んでる。また、近く的美容院を利用されている。白髪染めを2名の方はカットとあわせて行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとり出来る事が違うので、個々にできる範囲で野菜を切って頂いたり、テーブル拭き、食器洗いを職員と行ったりしている。	その人に応じて、野菜を刻んだり食器を並べたりテーブルふきや食器洗いを職員と一緒にしている。利用者と職員が会話を楽しみながら食事をしており、和やかな雰囲気である。家庭菜園があり、食材収穫は利用者の楽しみの一つになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に食べる量が違うので、個々に応じて量を変えている。水分摂取量の少ない方は毎日チェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	3名の方は自立されていて、毎食後歯ブラシを行っている。2名の方は誘導して、朝、夕2回、1名の方はその日によってしてくれない時がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立されている方は3名ですが、排便は確認させて頂いている。今年入所された2名の方は、在宅で紙パンツと尿パットを使用していたが、今はパンツに替えて代えて尿パットを使用している。1名の方はトイレ回数が少ないため声かけて誘導している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを職員が把握しており、尿量の少ない利用者には水分量のチェックをするなど、健康管理にも役立っている。2名の利用者が、紙パンツから従来のパンツに変わる等、自立に向けた支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のチェックを行っている。2名の方は、朝食時、牛乳を飲んで頂いている。認知症の進行した方が便秘がちになり、体操もなかなか行わないので散歩を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日行っているが、ご利用者様は健康状態を考えて、1日おきの方、その日の希望により入られる方、毎日入られる方と個々に浴して支援している。	入浴は毎日実施されており、体調やその日の気分に沿い、心地よい入浴支援を行っている。季節のしょうぶ湯、ゆず湯、お茶湯等も楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1名の方は、透析を行っているため病院の日は安静にして頂いている。他の方は、日中出来るだけ起きて頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別のファイルに薬の説明書を綴って、いつでも見られるようにしている。定期受診時に薬の変更や主治医の指示は連絡ノートに記載し、職員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	拭き掃除は雑巾で拭いて頂く方、モップで拭いて頂く方、テーブル拭きをていねいに行う方と出来る事をして頂いている。昨年は個々にあめを買っていたが、糖尿の方が血糖値が上がったため、その方が居ない時に食べるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日1名の方が外へ出られるので、近くを散歩したり、月2回は外出するようにしている。皆様の食べたいものを聞いて外食したり、花見に行ったりしている。墓参りや、帰省の要望の時はご家族に協力して頂いている。土曜日はドライブの日にしてはいたが、夏は中止していた。	近くのお舟出の湯の食事は利用者に評判がよく、年2回は行くようにしている。また、近くの昔からのなじみのうどん店や海の駅も利用している。墓参りや帰省の要望には、家族の協力を依頼している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1名の方はバッグに1000円持っている。他の方は日頃ほとんど使っていない。1名の方は、お金のことで不穏になったり、怒ったりされるので対応がむずかしい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望時に電話して、ご家族と話をして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音の大きさ、照明、温度調整は利用者様に合わせて配慮している。庭で家庭菜園を行っているので、利用者様と一緒に収穫したり、花を見たりして季節感を感じて頂いている。	広い庭の一角に家庭菜園があり、野菜や花が植えてあり、収穫の楽しみや季節感が感じ取れる。居間からベランダへの出入りが自由にでき、そのまま庭にも出られ開放的である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間は、一人ひとりいつの間にか居場所が決まってきた。食事時は利用者様同士の関係を配慮してくつろげるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた生活用品を持ってきている方もいます。大事にしていたぬいぐるみやこだわりの帽子を持ってきている。	居室には、本人の愛着ある帽子やぬいぐるみ、使用していたダンス等、なじみの物が持ち込まれ、その人らしい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・風呂場と大きく表示しており、各居室の入り口には、利用者様の氏名を表示している。移動時に常に手に何か当たるように、手すり、テーブル等を設置している。		